

SPOD フォーラム 2014

「地域体験を学びに変える ―“どうしようもない”から気づく力をつける―」

高知大学総合教育センター
リエゾンオフィス
(コラボレーション・サポート・パーク)
室 長 今 城 逸 雄

1. 自己紹介とグループ分け
2. どんな地域体験型学習をしていますか? <グループワーク 1>
3. 「地域協働企画立案」の経験 【資料 1】
4. コラボレーション・サポート・パークの「えんむすび隊」【資料 2】【資料 3】
5. “着ぐるみ”マジックを発見
6. 着ぐるみ体験をしてみよう <グループワーク 2>
7. 着ぐるみ授業「地域協働入門Ⅱ」の概要【資料 4】
8. 着ぐるみによる地域体験が学生に与える効果 【資料 5】【資料 6】
9. まとめ

※高知大学メルマガ「地域とつながる学生通信」配信ご希望の方は名刺をください。

「地域協働企画立案」シラバス（抜粋）

■履修対象 1 年生のみ 定員 15 名

■開講日時 集中講義

ほぼ月に 1 回、木曜日 5・6 時限目（16 時 30 分から 19 時 40 分）に行われるとともに、高知県内における団体等において、授業時間外（主に土曜、日曜、祝日）に実習を実施。

■授業科目の主題

この授業では、地域協働実習Ⅰに臨むにあたって必要となる資質、なかでも「自分で考えて行動する力」「前向きに行動する力」「チームワーク力」「他者に対する共感力」などの能力の向上を目指す。これらの資質は、社会で活躍するために最も求められているものでもある。

授業は、受講生 5～6 名でチームを編成し、各チームを支援教員 1 名でサポートする少人数演習活動を中心に行う。演習では、社会と関わるために必要なマナー（時間を守る、実習前日に夜更かしをしない、挨拶をきちんとするなど）を考え、実習の振り返りをチーム単位で行う。学期末には、個人及びチームのプレゼンテーションを実施する。

この授業では、プレゼンテーションの準備や調査活動は、基本的に授業時間外に行うことになる。したがって実習のほか、各種の準備等についても授業時間外にチームで集まって行うため、時間を各自で調整することが求められる。

【資料 2】

高知大学「コラボレーション・サポート・パーク」の沿革

<平成 19 年>

文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に「コラボ考房と 2 つの道場が育む自律型人材」採択

学生に自発的な活動実践の場を提供し、それについて教員が組織的な教育支援を行う特別プログラム。正課の授業における教育支援と、自発性・自主性を担保とする課外授業の 2 つの機能を併せもった準正課システム。「コラボ考房」「ファシリテーション力養成道場」「企画立案力養成道場」の 3 つのプログラムで学生が教員・社会人の支援を受けて活動。

★コラボレーション・サポート・パーク設置

<平成 22 年> 「地域教育再生ルネッサンス事業」に取り組み開始

地域再生に必要とされる研究と教育を体系的かつ包括的に推進する高知県内の拠点として、「地域協働教育学」の教育研究拠点を構築し、県内関係機関と協働して地域再生研究を推進しつつ、地域再生人材の育成を担う教育システムの開発・改善。

★地域と大学を結ぶ 1day ツアー「こちバスツアー」開始

<平成 23 年>

コラボレーション・サポート・パークにリエゾンオフィス機能

<平成 24 年>

コラボ考房プロジェクト活動報告会を「活動ブラッシュアップ会」に名称変更。併せて、学生との協働に関心のある地域の社会人のゲスト参加を強化

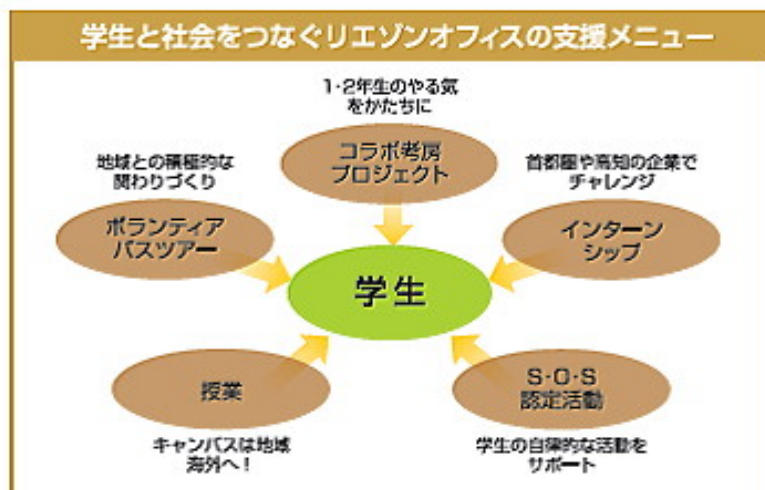
<平成 25 年>

「こちバスツアー」を「えんむすび隊」に改称。募集ポスターを物部キャンパス・岡豊キャンパスにも掲示開始

文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に「高知大学インサイド・コミュニティ・システム化事業（KICS）」採択

<平成 26 年>

KICS 地域コーディネーター（UBC）との連携



【資料 3】

「えんむすび隊」活動実績

【2010 年度 こちバスツアー一覧】

のべ参加者 78 人

	月日	市町村名	内容等
1	6 月 20 日	土佐町	土佐町・本山町 (れいほく森林ツアー、木の家具づくり)
2	7 月 19 日	香美市	土佐山田(伝統産業体験)
3	10 月 16 日	四万十町	十和(四万十ドラマの取り組み)
4	1 月 23 日	高知市	日曜市体験
5	1 月 29 日	大豊町	日曜市出店者を訪ねる (原木しいたけ菌つけ体験)
6	2 月 7 日	いの町	昭和レトログッズを訪ねる
7	3 月 4 日	室戸市	吉良川町(ひな祭り体験)
8	1 月 18 日	香美市	物部地区(しいたけ収穫体験)

【2011 年度 こちバスツアー一覧】

のべ参加者 40 人

	月日	市町村名	内容等
1	6 月 25 日・26 日	高知市	藁工ミュージアム(わらぼうりづくり)
2	7 月 9 日	いの町	吾北・中央地区(大豆植え付け作業)
3	8 月 20 日	いの町	吾北・中央地区(たいまつづくり作業)
4	8 月 26 日	いの町	吾北・中央地区(火祭り準備作業)
5	8 月 27 日	いの町	吾北・中央地区(火祭り手伝い作業)
6	8 月 28 日	いの町	吾北・中央地区(火祭りあと片付け)
7	7 月 9 日	いの町	吾北・中央地区(大豆植え付け作業)
8	11 月 27 日	四万十町	海洋堂ホビー館(着ぐるみでイベント手伝い)
9	2 月 12 日	高知市	おもてなし勤王党インタビュー
10	2 月 25 日	室戸市	吉良川町(ひな祭り体験及び建築物ツアー)

【2012 年度 こちバスツアー一覧】

のべ参加者 99 人

	月日	市町村名	内容等
1	4 月 15 日	四万十市	四万十市西土佐・口屋内地区 (河原清掃、タケノコ掘り、BBQ)
2	5 月 26 日	中土佐町	大野見(田舎寿司づくり手伝い、瓦アート体験)
3	8 月 12 日	仁淀川町	長者(七夕まつり手伝い)
4	10 月 13 日	大豊町	怒田地区(稲刈り)
5	10 月 28 日	馬路村	魚梁瀬地区村民運動会(イベント参加)
6	12 月 1 日	仁淀川町	長者地区(キャンドルナイト手伝い)
7	12 月 16 日	黒潮町	蜷川地区(モーニングサービスお手伝い)
8	1 月 18 日	黒潮町	蜷川地区(ケーキ作りお手伝い)
9	3 月 16 日	四万十町	海洋堂ホビー館四万十(イベント手伝い)

【2013 年度 えんむすび隊一覧】

のべ参加者 139 人

	月日	市町村名	内容等
1	4 月 7 日	四万十町	四万十桜マラソン大会(運営ボランティア)
2	4 月 13 日・14 日	高知市	日本女子プロ野球機構(オープン戦運営)
3	5 月 18 日	中土佐町	大野見(茶摘み)
4	6 月 9 日	仁淀川町	長者(菖蒲まつり手伝い)
5	6 月 16 日	本山町	田んぼアート手伝い
6	7 月 7 日	四万十町	海洋堂ホビー館四万十(イベント手伝い)
7	8 月 4 日	大川村	大平地区(草刈り等手伝い)
8	8 月 11 日	仁淀川町	長者地区(七夕祭り手伝い)
9	9 月 1 日	大川村	大藪地区(草刈り等手伝い)
10	10 月 6 日	馬路村	魚梁瀬地区村民運動会(イベント参加)
11	10 月 12 日・13 日	四万十市	三ツ又地区(ぎんなん祭り手伝い)
12	10 月 19 日	香南市	山北地区ひよどりみかん園(収穫手伝い)
13	11 月 17 日	高知市	龍馬ハンドインハンド(イベント参加)
14	11 月 23 日	高知市	ものづくり総合技術展(イベント参加)
15	12 月 22 日	高知市	土佐山キャンドルナイト(イベント手伝い)
16	1 月 25 日	高知市	沢田マンションギャラリー
17	1 月 26 日	香南市	岸本地区 VegelifeFARM(冬野菜収穫手伝い)
18	2 月 9 日	高知市	あそび山

19	2月22日・23日	宿毛市	楠山地区（梅まつり手伝い）
20	3月21日・22日・23日	香南市	西川地区（花祭り手伝い）
21	3月30日	四万十町	四万十桜マラソン大会（運営ボランティア）

【2014年度 えんむすび隊 1学期分】

	月日	市町村名	内容等
1	5月11日	安田町	中山地区（自然薯植え付け作業等）
2	5月17日	大豊町	八畝地区（地きび植え付け体験等）
3	5月17日	中土佐町	大野見（こんにゃく作り）
4	5月18日	高知市	長浜地区（長宗我部まつり手伝い）
5	6月1日	奈半利町	自然体験磨き上げ（まち歩き、カヤック体験）
7	6月8日	本山町	田んぼアート手伝い
8	6月8日	安芸市	自然体験磨き上げ（ナス収穫、料理体験）
9	6月15日	室戸市	自然体験磨き上げ（ジオパーク、たたき作り）
9	6月22日	北川村	自然体験磨き上げ（モネの庭）
10	7月13日	高知市	岡崎牧場（草刈り）
11	7月20日	四万十町	海洋堂ホビー館四万十（イベント手伝い）
12	7月27日	本山町	汗見川マラソン（イベント手伝い）



課題探求実践セミナー「地域協働入門Ⅱ」シラバス（抜粋）

■履修対象 1年生のみ。定員 20 名

着ぐるみに入った経験は問わないが、積極的に取り組む姿勢を求める。人見知りする、コミュニケーションが少し苦手だと感じている者でも、人と関わりたい、人を喜ばせたい、新しい世界に挑戦したいという積極的な思いを持つ者が望ましい。

■開講日時 集中講義

木曜日 4・5 時限目（14 時 50 分～18 時）と、土曜・日曜・祝日を使った商店街等での演習。グループ演習の準備などは、基本的に授業時間外で行う。着ぐるみに入った経験は問わないが、積極的に取り組む姿勢を求める。

■授業科目の主題

授業では、自己と他者との関わり、グループ内での役割、自己の行動や思考が他者にどのような影響（楽しませる・喜ばせる）を与えるかを、着ぐるみ体験を通して考える。授業は 5 つの構成からなる。

①「身体」を考える

自己と他者の身体を認識し、身体の動きを知る。着ぐるみを着たときの動きを知る。

②「動き」を考える

他者に自己を見せることを意識して動くことを考える。着ぐるみを思うように動かすために必要なサポートの仕方も考える。

③「伝える」を考える

他者に動きや思いを生き生きと伝えるためには、どのような動きや表現が必要なのかを考える。キャラクター設定やショートストーリーも話し合う。

④「人とのふれ合い」を考える

商店街等で、着ぐるみを使ったふれ合い体験を予定している。自分たちを知らない他者との関わりや、多様な視点からまちのあり方を考える。

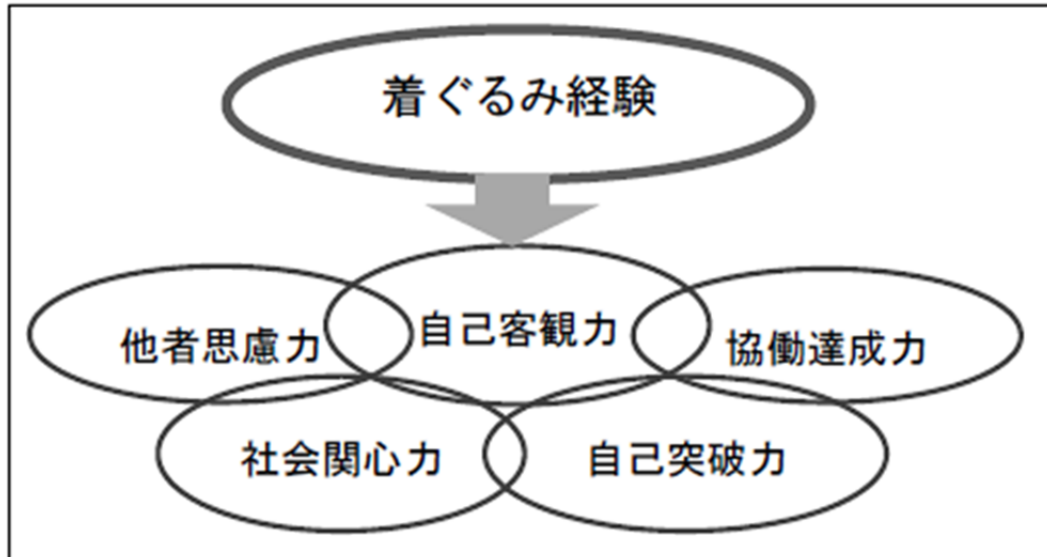
⑤「演じる」を考える

グループで考えたショートストーリーを演じてもらう。他者の評価を受け、自己を客観的に捉え行動の改善を考える。

授業最終日には、グループと個人での成果をプレゼンテーションしてもらう。

以上を通して、社会生活で必要とされる自己を取り巻く多様な関係の中でのコミュニケーションのあり方を考え、社会にチャレンジする力の養成を目指す。

着ぐるみ経験を通した気づきから学生が得られる力



- ◆自己客観力・・・非日常の空間でのメタ認知、自己行動と他者反応を意識する力
- ◆他者思慮力・・・仲間や観客が求めていることを考え、思いやり、行動に移す力
- ◆協働達成力・・・仲間と相互に支え合い、失敗を改善して達成する力
- ◆社会関心力・・・自分を取り巻く社会と、自分との関係を考える力
- ◆自己突破力・・・恥や壁と思っていたことをやり遂げ、自信につなげる力

【資料 6】

新卒採用（2013 年 4 月入社対象）に関するアンケート調査結果

日本経済団体連合会（2014 年 1 月 9 日）

「選考時に重視する要素」の上位の推移

